

## TSURUOKA ROTARY CLUB

## 国際ロータリー第2800地区 鶴岡ロータリークラブ

平成20年3月25日(火) 第2403回(本年度第35回)例会

●創立 昭和34年6月9日

●例会日 毎週火曜日(12:30~13:30)

●例会場 東京第一ホテル鶴岡 鶴岡市錦町2-10

ROTARY SHARES  
ロータリーは分かちあいの心例会に出席し  
友情を深めよう

## 本日の卓話 (4/1)

## ゲストスピーチ

鶴岡青年会議所理事長 恩田健次氏

3月25日(第2402回)例会報告

点鐘

ロータリーソング「我らの生業」

卓話:会員スピーチ「これからのRC」について

パストガバナー 藤川享胤君

ビジター:菅原登君(鶴岡西RC)

## 会長報告

暑さ寒さも彼岸までといいますが、日中は大分暖かくなり、会長として、今週から交換学生ガブリエルさんご両親の来鶴や50周年記念事業に関する会議などで忙しくなってくる気配であります。

## ◆会長ショートスピーチ

ところで今回は胃がんの治療に関してのお話をしてみたいと思います。胃がんの治療と言いますと手術が基本ですが、その方法も私の駆け出しのころのもの隔世の感があります。

胃の粘膜の小さな胃がんは胃内視鏡で一部の粘膜をがんと一緒に切り取ってしまう方法が普及しておりますし、お腹に小さな穴を数か所開けて、ここから挿入した内視鏡による画像を頼りに、侵された胃の部分を切りとるなどという方法もあることは良く知られています。

しかし、ある程度進行した胃がんの治療は、お腹を開けて胃を切除する方法が基本となります。この開腹による胃手術も最近は手術機械の進歩や手術期の栄養管理や輸液管理、麻酔などの進歩に支えられ、より安全な手術が行われるようになっております。

ところで治療方法が進歩し整備されても依然として胃がんで亡くなる方は多いことも事実です。我が国の死因の中では、主にがんを含む悪性新生物とい

## 次回の卓話 (4/8)

## 会員スピーチ

パスト会長 塚原初男君

われる病気が最も多く、その中でも胃がんは全国で男性では肺がんに次いで第2位ですが、女性では第1位を占めています。この胃がんによる死亡の数は10万人当たりの比較ではアメリカの10倍ぐらいにあたり、世界でトップの地位にあります。

しかし胃がんによる死亡例は、この10数年で半減しております。これは胃がんの検査法が進歩し、一般に普及したことにより、早い段階で適切な治療が受けられるようになったため、胃がんで死亡された方の数が減ったことによるとされています。完全な治療ができる段階で胃がんを発見するためには、各市町村の行っている集団検診が大きな役割を演じてくれるはずですが、全国的にはこの受診率はいまだ20%に達しない所が多いようです。

ところで、わが山形県の胃がん検診の受診率は40%前後とわが国でもトップクラスにあります。しかし一方においてわが県の胃がんの患者さんの死亡率は全国でもお隣の新潟県や秋田県と並んでトップクラスにあります。おそらくは胃がんとわかった段階でかなり進んでしまった胃がんが多いためではないかと思います。治療法や検査法が発達し適切な段階で医療を受けられれば100%近い治癒が得られる世の中になったのですから、治療の第一歩ともいるべき検査ができるだけ多くの方が受けてくださる事をいつも願っております。

## 幹事報告

## 1. 地区協議会のご案内

日時: 4/19(土)

場所: 東北芸術工科大学 締切: 4/4

## 2. 「米山学友の消息を尋ねる運動」提出のお願い

会長

真島吉也

会報委員会

副会長

富樫松夫

事務局

幹事

本間昭吉

青柳孝治 佐々木畠彦

鶴岡市馬場町11-63 産業会館3階

TEL:0235-28-3375 FAX:0235-28-3376

卓 話

## 「これからのロータリー」について

パストガバナー 藤川 享胤 君

ロータリーは今大きな岐路に立たされている。これからのロータリーの前に、これまでのロータリーを振り返ってみたい。10年前、グレン・キンロス会長は「ロータリーの心を」のテーマに掲げた。



次がレイシー会長の「ロータリーの夢を追い続けよう」であった。ロータリーの心、ロータリーの夢を理解することなしにロータリーは語れない。ロータリーとは何か、私は決議 23-34 項で答えたい。

相互扶助、互恵と親睦から始まったロータリーだが、自分達会員以外には何もしない団体は長続きしないという声に、ポールハリスは1906年、シカゴクラブの定款3条にシカゴ市の利益を推進するという項目を付け加えた。そして社会奉仕の一歩として公衆トイレの設置運動を開始した。

10年後ライオンズクラブの誕生をきっかけに社会奉仕第一主義の実践派と職業奉仕を優先する理論派が対立するようになった。1923年この2派を統一する決議がセントルイスでの国際大会に提出された23-34と呼ばれるものである。これは6つからなり、最初に出てくる項目が「ロータリーは自己のために利益を得ようとする欲望と、他人に奉仕しようとする義務感とそれに伴う衝動との間に常に起こる争いを和解させようとする人生の哲学である」ロータリーが社会奉仕に目を向けるようになったのはこの前後からである。

またロータリーは専門職業人の倫理を高揚するための実践の場であり、最初に社会奉仕や国際奉仕があるのではない。

サンディエゴで行われた国際協議会の中でビチャイラタクル元会長は、「良きリーダーは堅忍不抜だけではなく勇敢でなければならない。」といった。ラタクル氏はロータリー財団の管理委員長を務める予定だったが辞任した。理由の一つに RI との厳しい対立があったと思われる。「私は自分の威儀と信念を曲げてまでもこの戦いに勝とうとは思わなかつた。結果負けはしたが誰に恥じることもなく凛としてこの場に立っている。」エバンストンの高級官僚の関心は会員増強と財団への寄付の増大であり、ロータリーを限りなくライオンズ化することである。職業奉仕の重要さを説くラタクル氏は今の RI にとっては目の上の瘤である。私はポールハリス

が歩もうとした方向とは逆の道を今の RI はとるのではないかと危惧している。今年の国際協議会の多くの時間はロータリー財団に関するものだった。これはロータリアンの内なる成長や職業人の倫理運動の追及よりは社会奉仕にウエイトをかける RI の姿勢である。5 年前に最後の募金としていたボリオ撲滅募金はいつの間にか復活し、次年度より新たに 1 億ドル、世界の全てのクラブに毎年 1 千ドルを 3 年間集めることが既成事実になりかけている。決議 23-34 を手書き要質から抹殺しようとしている。

岐路に立つロータリー、日本はどの道を歩めばいいのか。世界の趨勢に道を委ねるか、決議 23-34 が採択されたあの時代に戻るか、RI の官僚に立ち向かえる世界的に影響力のあるリーダーをこの国から輩出するか。種を撒いたものに必ずしも借り入れが約束されているわけではない、意義ある仕事は全て信念を持ってのみ成し遂げられるのである。しかし種を撒かなければ借り入れはない。今こそロータリアンの品格が試されるのではなかろうかと私は思っている。50 周年を迎えるこのクラブにあって素晴らしいロータリアンを育てていくことが大切であろう。

委員會報告

50周年事務局から

加藤 賢君

実行各委員会で決まった事項について、4月2日まで書面で提出して下さい。

次年度幹事より

越智茂昭君

4月19日、地区協議会が行われます。会長・幹事含め総勢9名の皆様からご参加いただきたいと思います。どうしてもご都合で欠席される方は、委員長や委員の方に代理の調整等よろしくお願ひいたします。

親睦委員會

5月8日から11日までの日程で、台中港区RCとの統盟式に参加する計画を持っています。資料をご覧の上、多数のご参加申込みをお願いいたします。

◆スマイル

真島 吉也君 塚原 初男君 佐藤 孝子君  
越智 茂昭君

出席委员会

## ● 出席報告 (3/4) ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

会員数	出席	出席率	前々回 確定出席率
46名	25名	58.14%	74.42%

#### ●メイクアップされた方

藤川 享胤君 塚原 初男君 若生 恒吉君  
越智 茂昭君